

# 施策活用の検討の中で経営理念・方針を明確化させ創業が実現

## 瑠璃窯（秋田県）

平成27年に創業、地域の素材を利用した陶器の制作・販売、陶芸教室開催等を行う事業者。①秋田の素材を利用した器の制作、②その器をとおして社会への幸福感の提供、の二点の思いを強く持っている。

### 1. 相談のきっかけ

相談者は、秋田県の創業支援補助金制度「あきた起業促進事業」を活用しながら創業を進めることを希望していた。

相談者の提供する製品・サービスのイメージをある程度想定しており、さらに創業に向けて事業イメージを具体化することを希望。また、継続的な売上拡大も目指すべく、他の起業家からの情報を得て、当拠点の存在を知り、来訪相談に至った。

### 2. 課題整理・分析

[強み]

代表者の陶芸に関する経験・知見と、陶器制作に対する熱意。

[課題]

・補助金活用にあたっては、提出期限が迫っており、事業計画の作成を早急に進める必要があった。事業者の要望にもあったとおり、手続き窓口との事前調整も必要であった。

・また、そもそも事業計画の作成に当たり、代表者の思いが経営理念や経営方針として反映されておらず、せつかくの制作への熱意が伝わりづらい状態であった。

・さらに計画立案にあたって、製品・サービスのコンセプトを具体化する必要があった。

### 3. 解決策の提案

・代表者の思いを経営理念・経営方針として言葉で明確にすることを提案。外部（顧客や取引先など）に自社情報を発信する機会も多いことから、経営方針はインパクトの強い簡潔なフレーズでまとめ計画に反映させることを助言。

・事業分野を、「制作・販売」と「陶芸体験」とに分け、製品コンセプトを再精査し、強みに基づいて事業の方向性を固めるよう助言。

・補助金活用に必要な書類の整理に関しては、提出窓口である秋田商工会議所に当拠点から連絡を行い、施策活用にかかる留意点についての相談対応を要請した。

## 4. 成果

<経営理念から事業内容までストーリーとして具体化できた>

・事業者は、自社を見つめ直し、「器づくりを通じて地域文化に貢献し心の豊かさを提案していく。」と経営理念を固め、事業計画にも反映させることができた。

・さらに、経営理念を具体的な商品・サービスとして明確化していくなかで、事業イメージが具体化し、セールスポイントにもできるウリが明確化できた。

→「制作・販売」については「手作りによる暖かさ」「地域の素材活用による心安らぐイメージ」を、

→「陶芸体験」については「陶芸自体の楽しさの提供」「自分だけの器ができる満足感」を、

それぞれ前面に出しながら、量産品や仕入販売スタイルを採るショップとの差別化を図る方向性が固まった。

<補助金の円滑な活用>

・当初目的の補助金に関しては、商工会議所に相談対応を事前に要請したことで、円滑な制度利用が実現。「あきた起業促進事業（起業支援補助金・通常枠）」に採択され必要資金を調達でき、無事に創業できた。

・さらに、補助金活用を検討する中で、事業者は単なる政策活用という視点に留まらず、経営全体の根幹にかかわる部分まで考えをめぐらせ、今後の事業の方向性を整理し、事業領域の拡大と成長発展の可能性を拓いた。